

『文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ』（前編）武蔵野学院大学佐々木隆研究室、平成 31 年 4 月。ISBN:978-4-9907997-5-5

プロローグ

第 1 章 ロボットの時代

第 2 章 定義としてのロボットを考える

第 3 章 文学・マンガ・アニメ・映像のロボット（戦前編）

特に定義として「オートマトン（オートマタ）」「人造人間」「ロボット」「アンドロイド」「サイボーグ」の初出等に触れながら、日本では海野十三の強い影響などについても触れた。（A 5）

『文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ』（後編）武蔵野学院大学佐々木隆研究室、平成 31 年 4 月。ISBN:978-4-9907997-6-2

第 4 章 文学・マンガ・アニメ・映像のロボット（戦後編）

第 5 章 科学とテレビアニメ

第 6 章 人造人間としてのクローン

第 7 章 超少子高齢社会とロボット

関連年表

エピローグ

第 3 章及び第 4 章は前編・後編と合わせて特に扱ったのは 201 作品である。アシモフのロボット工学三原則、フランケンシュタイン・コンプレックス、手塚治虫のロボット法などにも言及しているが、日本の小説においても注目すべきものがあり、これについても総合的に紹介した。（A 5）